

■旧阪神パーク跡と甲子園浜自然環境センター

今から70年以上前の戦前、甲子園浜には初代の阪神パークと言う遊園地(現在のららぽーと甲子園の場所に有ったものは戦後に移転した2代目)が広がっていました。遊具の他に水族館や動物園も併設され、京阪神間の一大レジャー施設だったそうです。第2次世界大戦中、飛行場を作るために軍に壊されたとの事ですが、そのコンクリートの残骸が今でもはっきりと残っています。四角いコンクリートの枠組みや丸いコンクリート枠などは、ゾウやキリン達の水のみ場だった場所かも知れません。また、遊園地跡の面影を残す物として、ライオンの顔の石像があります。顔一面が海草やフジツボに覆われていますが、ライオンである事が確認できます。

跡地には現在甲子園浜自然環境センターが立地しています。当時の阪神パークの園内図の他に、野鳥観察ができる双眼鏡や、ミニ水族館、ウミガメの骨格標本など、子供たちの興味を引く展示も多数ありますので、ご家族でも立ち寄ってみてください。往時には、大きな賑わいをみせた遊園地跡が大潮の干潮時の時間だけ姿を見せ、自分の足で散策できる甲子園浜。ぜひ、お宝探しの気分でライオン像を探してみてください。



ライオン像



甲子園浜自然環境センター(奥の建物)

■旧阪神競馬場・鳴尾球場

鳴尾駅から阪神競馬場跡地までの間に、かつての暮らしの物語を感じることができます。当時の競馬場の利用者は、休日に鳴尾周辺に宿泊し、質屋で不要なものを元手に替え、競馬で得た資金を銀行に預けていました。そのため、鳴尾地区には旅館など、そうした施設や店舗の名残が、今なお残されています。

そんな阪神競馬場は、かつて球場という顔も持っていました。競馬場完成から間もなく、政府から馬券発売禁止令が通達されたため、他の催し物を行う必要が発生したのです。そこで当時、京都の球児たちが大阪の豊中球場で行っていた野球大会が、収容しきれない観客に悩まされていることを知り、新たな開催地として名乗りを上げたのです。

現在は、競馬場、球場ともに他所に移転し、大学や公園、浜甲子園団地になっています。かつて高校球児が汗を流し、人々を賑わせた球場跡地には歴代の対戦表を記した記念碑と記念像が設けられています。



昭和36(1961)年頃の旧阪神競馬場 *写真3



鳴尾球場の記念碑

*表紙イラスト: 橋弘 / 西宮在住・画家



西宮まちなみ発見MAP

【西宮まちなみ発見MAP】について

西宮まちなみ発見クラブでは、平成25年の活動として、西宮の歴史・自然・暮らしを感じる「景観みどころコース」を作成しました。その中から平成26(2014)年に5つのコース(1~5)を、27(2015)年には3つのコース(6~8)を選び、携行用の「西宮まちなみ発見MAP」として完成させました。

このMAPを片手に、西宮の魅力に触れてみてください!

1 甲陽園~廣田神社	5 山口町
2 西宮北口~甲子園口	6 阪神西宮~夙川
3 夙川~御前浜	7 鷲林寺・苦楽園
4 甲子園	8 鳴尾

「視点場」:裏面地図上のこのマーク「視点場」とは、メンバーが見つけたオススメの景観が見えるベストポジションです。視点場は、誰でも近寄れる場所を設定しています。

【西宮まちなみ発見クラブ】とは

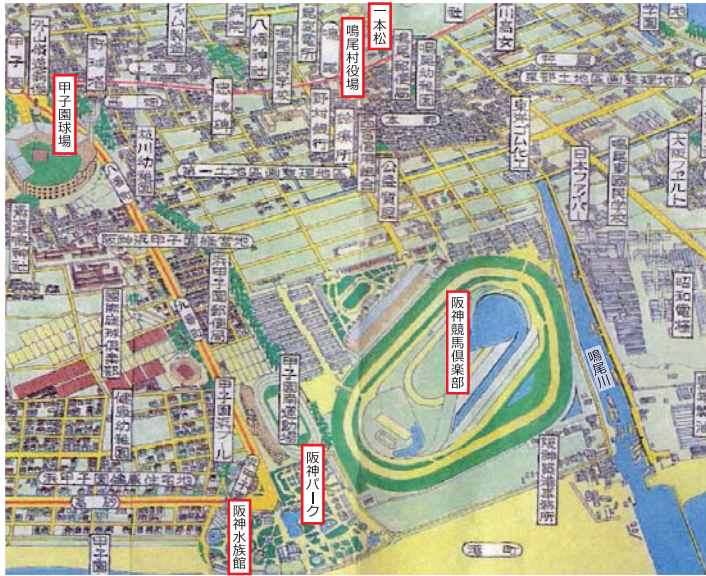
西宮まちなみ発見クラブは、公募による市民で構成されるクラブで、平成17(2005)年より活動しています。景観に関する情報の共有や意見交換を通じて西宮のまちなみについて考え、美しいまちなみづくりを目指す活動を行っています。

平成28(2016)年3月7日発行
企画・制作:西宮まちなみ発見クラブ
協力:関西学院大学 社会連携プロジェクト「西宮まちづくり」チーム
西宮まちなみ発見クラブ事務局:西宮市役所景観まちづくり課(0798-35-3526)

■変わり行く鳴尾で ~昔の時代とビューポイントを訪ねて~

鳴尾地域は、鳴尾駅の高架化、浜甲子園団地の大規模な建て替え、大型ショッピングセンターの出現等で徐々に変化をしています。今回のコースにはそのような中で昔の時代にタイムスリップしたような鳴尾の路地、昭和初期のモダンな様式を取り入れている建物が残っています。

かつて昭和の初めにリゾート開発された浜甲子園には、阪神パーク、阪神水族館、鳴尾球場、阪神競馬場等がありましたが、それらの跡が現在どのようになっているか発見する楽しみがあります。また、ビューポイントとしては、甲子園浜からの六甲山系を背景に広がる西宮のまちなみの眺めは最高です!



昭和17(1942)年鳴尾村鳥瞰図 *写真1

■メタセコイアの移ろい



枝川町にあるメタセコイアの並木道には新緑に始まり、紅葉、落葉と四季毎に美しい表情を街に映し出してくれます。

「メタセコイア」は、三木茂博士が植物遺体から世界で最初に発見し、命名されました。博士は武庫川女子大学で教鞭をとっていたこともあり、武庫川女子大学・中高等部周辺を取り巻くメタセコイアは自ら命名した樹木に対する博士の熱い思いが感じられます。

*出典:「メタセコイア-昭和天皇の愛した木」斉藤清明著 / 中公新書

■鳴尾駅

鳴尾駅は、阪神電鉄が大阪~三宮間の営業を開始した明治38(1905)年にできました。これに先立ち、阪神電鉄では工事費の負担が大きくなり用地買収が進まなくなりましたので、鳴尾地域では、辰馬半右衛門氏が土地を無償提供し、鳴尾駅を誘致しました。その結果、鳴尾付近の線路は直線の計画を変更して、大きく南へとカーブを描いています。

現在は、連続立体交差高架化事業の一環で、謡曲「高砂」に詠まれた「鳴尾の沖を行き交う帆掛舟」の風をはらんだ帆をイメージした駅舎も工事中です。また、この駅舎のデザインには大学の最寄り駅であることから「先進性と理性」も併せた意匠もコンセプトの一つになっています。



昭和42(1967)年の駅前 *写真2



現在の駅前



現在の鳴尾駅

■浜甲子園団地

敷地31万㎡に日本住宅公団(現都市再生機構)が昭和39(1964)年(竣工)150棟4613戸の住宅を建設しました。約1万人が暮らす団地も高齢化問題と老朽化問題から、平成17(2005)年から建替えが始まりました。街の景観をトータルデザインするためのガイドラインに基づき建て替えを進めています。



さくら街(平成20(2008)年竣工) *第5回西宮市都市景観賞・まちなみ発見クラブ賞受賞



なぎさ街(平成27(2015)年竣工)



昭和44(1969)年頃の浜甲子園団地 *写真4

*写真1:「鳴尾村史」より
*写真2、3、4:西宮市情報公開課より

*MAP作成にあたり、以下を参考にしました。
「鳴尾村史」鳴尾村誌編集委員会著 / (株)ぎょうせい / 昭和46(1971)年発行
「メタセコイア-昭和天皇の愛した木」 斉藤清明 / 中公新書 / 平成7(1965)年発行

1 鳴尾一本松／里中町2丁目

現地の立札によると「好天日には西は須磨一の谷まで、東は天王山や奈良のくらがり峠まで遠くから見る事ができ、旅人の目印になりました。この一本松はその大きさと美しさで人々を助け、人々から親しまれていました。」当時の松は枯れ、現在5代目の松が植えられていますが、当時より小振り、建物に取り囲まれているため、現在はほとんど目立たなくなっています。



2 明るい地下道／鳴尾町3丁目

国道43号線を横断するこの地下道は、従来の暗いイメージを一新させる、明るく楽しい地下道です。壁画「四季のファンタジー」は武庫川女子大学の学生と地元の鳴尾小学校の児童により平成19(2007)年3月に完成しました。



3 鳴尾の路地／鳴尾町3丁目・4丁目

地下道を南に歩くと、細い路地が縦横に走っています。耐久性・耐久性を確保するために、板を焼いて家屋の外壁にした民家が建ち並んでおり、懐かしい昭和の時代にタイムスリップしたような気分になります。



4 旧鳴尾競馬場スタンド／甲子園九番町

旧鳴尾競馬場(旧阪神競馬場)は明治40(1907)年に竣工し、この建物は競馬場のメインスタンドの貴客室として昭和10(1935)年に建てられました。昭和初期の歴史的建造物であり、現在は武庫川学院の芸術館として使用されています。



- 1~10 景観みどころポイント
- まちなぎコース
- 歩行者専用道路
- 西宮市都市景観賞受賞
- 視点場 → 眺望方向
- バス停
- 公園
- ベンチ
- トイレ
- コンビニエンスストア
- ガソリンスタンド



水鳥集う甲子園浜



鳴尾球場の記念碑



鳴尾川のヨットハーバー



浜甲子園さくら街の並木

5 メタセコイアの並木／枝川町

このメタセコイアの並木は新緑の頃、緑のトンネルとなり、緑豊かなまちなみを創り出しています。秋の紅葉、冬の落葉も素晴らしい景観です。



6 枝川沿い／枝川町

市街地を流れる河川は、まちなみの景観を形成する大きな要素です。川沿いの緑の木々と川面が、親水性豊かなまちなみを創っています。



10 甲子園「ふれあい」花壇／甲子園七番町

市民・学校と行政とのパートナーシップのもと、市民生活に潤いややすらぎをもたらす「花と緑のまちづくり」です。かつてこの花壇は、この地に阪神パークがあった時代にいろいろな動物の像が飾られて子供たちを喜ばせていました。



9 甲子園筋／甲子園九番町

かつて旧枝川が流れていて廃川後、阪神電鉄甲子園線の路面電車が走っていました。道路の両側には高くそびえたホプラとプラタナスの街路樹が植えられ、まちなみの緑を豊かにしています。



8 濱甲子園倶楽部会館／浜甲子園2丁目

昭和初期のモダンな様式を取り入れている建築物として、「ひょうごの近代住宅100選」に選ばれており、昭和7(1932)年建設です。当建築物保存活動で第4回西宮市都市景観賞を受賞し、その後西宮市都市景観形成建築物に指定されています。



7 甲子園浜ビューポイント／浜甲子園1丁目

浜から西に目をやると、六甲山系を背景に街並みが広がる西宮の代表的眺望ポイントです。浜には様々な野鳥が飛来し、季節によっていろいろな景観が楽しめます。

